



通靈（鬼）經
驗



鳥越敦司 atushi torigoe

我們可以說，心理還是鬼，。私も三十四、五歳まではこの幽霊が全く見えなかった。我也34，這鬼並沒有出現在所有的，直到五歳。正確に何月に見たかを忘れてしまったので、どちらの歳かは、はっきりしないのだが。正因為我忘了是在哪一個月所見，是時代的，但我並不清楚。とにかく、子供の頃より幽霊の話なんて誰でも見聞きするし知っているものである。無論如何，這是我們知道看還是從小時候聽到有人南特鬼故事的東西。それで、私も幽霊が見えないかなと思っていたが、何処でも全く見ることはなかった。所以，我也認為一個人不能看到鬼，沒有看所有的任何地方。それで、幽霊なんて存在するのか、と思ったりした事もあった。所以，你存在南特鬼，我認為或者是它也在那裡。でも、幽霊の体験談なんて結構あって、本当にあるのだろうとは思っていたのだが、それでも実際に見たことはなかったのである。但是，如果有經驗相當南特鬼，但我不認為這真的一定的，但它仍然是沒有真正見過它。

そして私も三十四、五歳になってしまった。而且我也34，已經成為一個五歳。その頃、新聞配達をしていたので、朝は三時には起きてバイクで新聞販売店へ向かう毎日を送っていた。當時，因為它是一個送報，早上不得不每天送向報刊亭騎摩托車發生在三點鐘。私生活では心靈写真の本など見ていたのである。在私人生活中她是在看，比如這個精神照片。

ある朝、といっても三時で夜明け前の真っ暗な時間に、いつものようにバイクに乗り販売店に向かっていった。一天早晨，在三點鐘黎明前黑暗的時候說，我是標題總是莊家騎自行車等。住宅地の家が多い小さな道を国道に出るまで走っていると、ある曲がり角に来たときにいたのだ。當房子的小路上住宅區經常跑接國道，它是在當它來到了一個轉折點。季節は冬だった。季節是冬天。それなのに半そでの白い薄い衣装で何か外国人の若い女性みたいな人が立っていたのだ。然而，人們像一個外國年輕女子站在白色的薄服裝短袖。私は、ついに出たと思った。我以為我終於走出。何か透けそうな感じで肉体といった感じではない。不喜歡的肉掛在容易感到純粹的東西。少しその女性は、ゆらりと動いた。女人，移動搖曳一點。神秘的な感じではあった。有一種神秘的感覺。だが、仕事に行っているので停まるわけにいかず、そこを通り過ぎていった。但是，Ikazu意味著完全停止，因為他們去上班，我去那裡過去。

幽霊を見て発狂した人もいる。有些人瘋了，看鬼。私も心靈写真を多数見ていなかったら、おかしくなったかもしれない。我也如果你沒有看到大量的通靈的照片，可能是滑稽。この世のものではない感じ、は確かに頭がおかしくなりそうなのだ。感覺不屬於這個世界，他是肯定會嚇壞頭。

それから数日後、同じように夜明け前にバイクで仕事に向かっていくと、とある家から小さな子供が何人も出てきた。然後幾天後，當相同的前往黎明前的摩托車上班，從家語小的孩子出來的任何人。私はお通夜かな、と思ったのだが、後で考えるとお通夜でも子供が夜中の三時過ぎに起きていて、家の外に出てくるだろうかと思うと、あれは心靈だったのでは、と思うのである。我醒來假名，我想到這一點，但都發生在三點鐘，早上孩子甚至在喚醒和思考之後，我認為會出來的房子，已經出現了精神就是，它想。

それからしばらくして、今度は新聞配達の途中、まだ夜は明けていない頃にある家の近くにきたら、向こうから着物を来た老女がすすすすと地面をすべるように歩いて来た。然後，過了一段時間，現在是一個送報的中間，你接近的房子在那個時間是不是還為夜晚來臨之際。是一個老女人來自對方和服來走滑油煙煙塵和地面。そして右に曲がっ

てある家の中に入って行った。我走進那彎曲到右側的房子。後からそこを通るときにその女性が入って行った場所を見ると、そこは全部壁で入り口は一つもなかったのだ。看著那裡的女人走進穿過時以後的地方，就有我沒有在所有的牆壁一個入口。間違いなく幽霊だろう。無疑這將是一個幽霊。

この三つはいずれも夜明け前である。無論這三人也就是黎明前。心霊というか幽霊は、もしかしたら明るいところには出てこないのではないかと思ったりする。幽霊或者說通靈，或者我認為它不會不出來亮的地方可能。

さて、幽霊と湿気については関係があるとも言われる。那麼，它也說，鬼和水分有關。例えばタクシーの運転手が女性を乗せて、後でいなくなったのに気づいた時に、座っていたシートは濡れていたとかいう話がある。例如，我把出租車司機是個女的，當我看到後走了，這是坐在有一個故事什麼是濕的紙。私が東京都町田市のマンションで部屋の中に観葉植物など湿気が高くなるもの、容器に水をいれて置いていたりもした時にある夜、ふっと何かが部屋に入ってくる気配がした。我打算水分，如観葉植物是在町田，東京，一個晚上的公寓房間時，高連或不把把水倒入容器中，事情的腳進入室內的一個標誌。私は布団に寝ていたが、いきなり両手を押さえつけられた感じがした。我睡在蒲團上，但突然感覺壓相送。でも、その時は何も見えなかった。但是，在那個時候我什麼也沒看見。そのうち、その何者かは出て行ったのだろう、両手は自由になった。其中，有人大概走了出去，他的雙手變得自由。それで、湿気と関係があるのかなと思ひ、水やなんかを捨ててしまったら、二度とそういう事は起こらなかった。

所以，我覺得水分和的關係是否是，如果等待時間過長，扔掉水和東西，沒有再出現。今、これを書いている時、外は雨が降っている。現在，當你寫這個，外面正在下雨。昨日は一日中雨だった。昨天一整天雨。こういう時こそこんな話、実話を書いてみたくなるのも心霊、幽霊は湿気を好むのかもしれない。這個故事正是這樣的時候，即使是精神成為想寫一個真實的故事，一個幽霊可能更滋潤。

最初の実話は福岡県福岡市、もっと書けば早良区での話である。第一福岡，福岡縣的真實故事是早良區一個故事，如果你寫更多。ほんとに私はそれまで幽霊を見なかった。我真的沒看到鬼，直到它。華嚴の滝に行っても何も見えなかったし、何も感じなかった。我什麼都看不到，甚至去了華嚴瀑布，什麼我沒感覺。自殺の衝動にも駆られなかった。也有人自殺衝動驅動。

初めて見てからは。その後。神社などに行くときと掛殿のとろろで袖霊と思われる人の姿を見たりするようにもなったのだが、最近では神社にも行かないので袖霊を見ることもなくなった。從看到的第一個時間。那麼。它也適應於或眼前人誰可能是在旅途中和崇拜大廳聖地聖靈，但最近也去看看聖靈，因為它並沒有去神社。

又、機会があれば書いてみることにする。此外，將嘗試寫如果有機會。